

## 第5節 市民参加と広域連携

### 基本目標 5

### 市民参加と広域連携 【環境にやさしい行動を実践するまち】

#### 1. 目指す将来像

地球温暖化の防止や自然環境の保全を推進していくためには、市はもとより、市民、事業者がそれぞれの役割を認識し、互いに連携しながら継続的に取り組みをすすめていく必要があり、そのためには様々な方に日常生活や日頃の活動の中から「環境配慮行動」を実践していくことや、十勝全体で取り組みをすすめていくことにより【環境にやさしい行動を実践するまち】を目指します。

この基本目標5の達成に向けて、以下の2つの基本施策に取り組みます。

【5-1】環境配慮行動の実践

【5-2】広域連携の推進

#### 2. 現況

### 基本施策【5-1】環境配慮行動の実践

現在、帯広市では市内の小、中学校の授業等のほか、市内の町内会、PTA、各種サークルなどの団体へ向け、出前環境教室を開催しています。また、平成14年度から『とがち・市民環境交流会』を開催し、市民・環境団体・企業・学校等がそれぞれの環境活動を展示・発表し、情報交換や交流を行っています。

#### (1) 環境配慮行動の取り組み

##### ア. 清掃ボランティア

「自分たちのまちは自分たちの手で美しく」という共通認識のもと、地域住民や地元企業を原動力として行政がサポートする清掃ボランティアのしくみがあります。「クリーン・キャンパス・21」と「エコフレンズ」がありますが、「クリーン・キャンパス・21」は主に企業や団体、「エコフレンズ」は主に個人の方を対象とした清掃ボランティアです。

##### イ. 環境交流会

環境交流会は平成14年度から開催しており、市民協働のイベントとして、環境団体や企業、学生などによる活動の発表・展示のほか、体験ブースなどが設置され、多くの市民で賑わいます。交流会を通し、多くの市民が幅広い多様な環境問題や活動の実情を知ること、環境活動への参加につなげていくことを目的としています。

<環境交流会の出展者数及び来場者数>

年度	H30	R1	R2	R3	R4
出展者数	30	25	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため	17	20
来場者数	1,236	1,363	中止	209	1,022



令和4年度環境交流会の様子

### ウ. COOL CHOICEの推進

「COOL CHOICE（クールチョイス）」とは、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという取り組みのことで、帯広市は、平成28年7月29日に賛同登録をし、ホームページや広報を通してCOOL CHOICEを推進しています。

### エ. 出前環境教室

出前環境教室は平成9年度より、希望者のニーズに応じて地球温暖化の現状から身近に取り組める省エネ活動の紹介まで、出来る限り興味を持ちやすく、分かりやすい教室を実施しています。環境に関する学習を通して、参加する市民が環境に関心をもち、深め、具体的行動に結びつけるきっかけを提供することを目的としています。

年度	H30	R1	R2	R3	R4
実施件数	47	34	17	27	38
参加者数	1,754	989	1,344	1,656	1,861

平成24年度より「帯広らしい環境プログラム集」を発行し、学校や行政などが連携した環境教育の実施を進めています。また、平成24年度より学童保育所、平成27年度より地域サロンにおいて新たに実施しています。



エコバッグ作りの様子



出前環境教室の様子

### 基本施策【5-2】広域連携の推進

#### (1) 十勝バイオマス産業都市構想

平成25年6月に、十勝19市町村は関係7府省が共同で推進する「バイオマス産業都市」に選定されました。

十勝の豊富なバイオマスを活用し、地域循環型社会の形成や自立・分散型エネルギー供給システムの構築、低炭素社会の実現に向け、十勝19市町村で連携し、持続的な地域経済の確立を目指しています。

#### (2) 十勝19市町村の連携（十勝定住自立圏構想）

「十勝定住自立圏構想」の環境分野においては、「地球温暖化の防止に向けた低炭素社会の構築」を目指し、環境意識の啓発や再生可能エネルギー・省エネルギー機器の導入促進について、連携したイベントを開催するなど、広域連携での取り組みを行っています。

#### (3) JICAとの連携

帯広市には、JICA 北海道センター（帯広）が設置されており、東北北海道における国際協力の拠点として事業を展開しています。JICA 北海道センター（帯広）では、開発途上国から研修員を受け入れており、各研修員は行政、環境、農林水産業等に関する研修コースにおいて、専門知識や技術を習得しています。

帯広市は、環境に関する研修コースを通して、環境行政や環境モデル都市としての取り組みを世界に発信しています。

### 3. 施策の実施状況

基本施策【5-1】環境配慮行動の実践		
令和4年度の取り組み	実績等	関連部局
まち美化サポート事業の推進	①クリーン・キャンパス・21 市民と行政が協働で取り組むまち美化サポート事業を継続実施した。 ○活動地区：14地区（中央公園、公園大通、商店街、とてっぽ通、かしわ公園、文化ホール北、工業団地、西帯広商店街、稲田、つつしが丘、市内河川、南町、帯広北、緑ヶ丘） ○参加数：32団体、2個人 ②エコフレンズ アダプト・プログラムの簡易版として、地域の美化が市全体につながっていくことを目指し、主に個人向けの「エコフレンズ」事業を継続した。 ○登録数：3,925名	環 境 課
クリーングリーン運動の推進（団体、町内会）	帯広市と市町連環境衛生部会が地域環境美化運動として、市内の全町内会に周知・啓発パンフレットを配布し、次の事業を実施した。 ①定期清掃 各町内会単位で5月～10月の期間、日程を設定して町内の定期清掃を実施。全市規模の清掃である。 ②全市一斉河川清掃 令和4年5月8日（日曜日）に実施した。 ○参加数：195町内会、2,260人 ③ごみの減量化・再資源化 町内会単位での資源ごみ回収等の取り組みを推進した。 ④畜犬の適正飼育の啓発 適正飼育パンフレットを市内全町内会に配布し、また、看板の回転・設置などにより啓発を図った。	

飼い犬の適正飼育普及啓発	帯広市と市町連環境衛生部会が地域環境美化運動として、畜犬の適正飼育パンフレットを市内全町内会に配布した。また、犬の飼い主に対し、狂犬病予防注射の案内にチラシを同封し、適正飼育の啓発を図った。	
環境アドバイザー等、地域環境指導者の育成	出前環境教室などの機会を通じ、地球温暖化防止をはじめとした環境保全の啓発事業を行った。	
環境教育の普及、環境保全活動参加機会の提供推進	<p>①出前環境教室の開催 38回 参加者 1,861名</p> <p>②環境交流会の開催 地域の環境保全活動や環境課題について、現状を把握し情報交換を行うとともに、市民に広く環境活動への参加を啓発することを目的とするもの。 (出展団体：20団体、来場者：1,022名)</p> <p>③環境学習会 市民を対象に、十勝の豊かな自然に触れることで環境への関心と知識を深めることを目的とするもの (令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。)</p>	環 境 課
	<p>①「出前教室」(総務課) 15校 28クラス 874名</p> <p>②「施設見学」(水道課施設係) 686名</p> <p>③「施設見学」(下水道課施設係) 40名</p>	上下水道部 総 務 課
環境教育の普及、環境保全活動参加機会の提供推進	<p>①宿泊・日帰り学習の小学校5年生を対象に特別授業の中で環境学習を実施した。 12回 9校 341人</p> <p>②科学展示室に設置した38種の展示品 令和4年度展示室入場者数 26,590人</p> <p>③花王国際こども環境絵画コンテスト入賞作品展示を実施した。 4回 4,600人</p>	児 童 会 館
環境教育及び啓発活動、情報提供	<p>①小学生を対象に、バスの乗り方や運輸と地球温暖化の関係、BDFの精製・活用方法などをテーマとした出前講座を実施して、公共交通の優位性について啓発を図った。 ○小学生 20回 1,048名 (高齢者を対象とした出前講座については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止した。)</p> <p>②帯広市地域公共交通活性化協議会において、バス利用啓発のための小冊子の作成・配布を通じて、市内の中高生(中学3年生及び高校1,2年生)や転入者に対し公共交通の優位性について啓発を図った。 ○中高生向け 5,200部 ○転入者向け 5,000部</p>	都 市 政 策 課
環境教育の普及、環境保全活動参加機会の提供推進	<p>①学校・教育機関への出前講座 自然 8件 アイヌ文化 9件 歴史と考古学 3件</p> <p>②学校・教育機関以外への出前講座 自然 2件 歴史と考古学 10件</p>	百 年 記 念 館
自然観察の指導者の育成	博物館講座開催 12回 409名参加	
環境教育・環境学習の拠点となる機能の整備	<p>幼児や児童等の団体、免除申請団体や一般入園者を対象に、動物とのふれあいや観察・体験教室などを通じて、自然や環境学習、情操教育の場を提供することを目的に実施した。</p> <p>①動物とのふれあい教室 68団体 2,023人</p> <p>②飼育体験 3回 11組</p> <p>③おびZoo寺子屋 5回 94人</p> <p>④小学生のための動物園塾 1回 11人</p> <p>⑤その他、各種講座の開催</p>	動 物 園
総合的な学習の時間支援事業	<p>環境モデル都市の指定にふさわしい環境教育の推進など、特色ある教育を一層進めるために、基礎的な予算措置と、学校が独自に目標を設定・管理し、積極的に企画提案する取組の支援をとおして、学校の主体性・自律性を向上させ、信頼される学校づくりを進めた。</p> <p>「おびひろ市民学推進事業」の中の総合的な学習の時間支援事業として、市内全小中学校において、各学校の特色を活かした教育活動を展開しており、協力事業団体の拡充を図っている。</p>	学 校 教 育 指 導 課

環境教育に関する教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究教材の整備</li> <li>環境に関する書籍等を購入し、教職員へいつでも貸し出しができる環境を整備</li> </ul>	教育研究所
学校教育における環境教育の支援・環境教育教材の充実	環境に関するパスファインダー（改訂版）を設置・提供した。	図書館
企業等の事業者による環境保全への取り組み	全国15社の企業より環境報告書（CSR）をいただき、市民に提供した。	
「道の日」道路清掃	各道路管理者が道路愛護運動を実施しており、帯広市は道路の役割や重要性に対する市民の関心を高める事を目的に市道の清掃を行った。	管理課
情報提供システムの確立と充実	環境行政・施策、及び環境に関わる諸情報についてホームページを開設し、随時、情報の更新・追加を行った。	環境課
インターネット	市のホームページにて環境行政に関する情報を発信した。	
広報紙等	市の広報紙に環境に関する情報を随時掲載し、市民への周知・啓発を図った。 また、7月には日常生活での省エネ行動や市の取り組みを紹介した啓発チラシを広報紙に折り込み、市内全戸に配布した。	

基本施策【5-2】 広域連携の推進		
令和4年度の取り組み	実績等	関連部局
十勝定住自立圏における地球温暖化対策の推進	6月から9月の毎月第1金曜日に「とがち市町村一斉ノーカーデー」を実施した。7,193人（23,209km）が参加し、3,393kg-CO2の二酸化炭素排出量を削減した。	環境課
人材派遣や研修員受入による人材及び指導者の育成と技術協力の推進	令和4年度については、環境問題について取り組むJICA北海道センター（帯広）の研修コースが無かったため、情報発信等を行うことができなかった。	観光交流課
研修員等人材教育のための指導者の育成	JICA北海道（帯広）を中心として、海外の研修員向けの研修の際、講師等を地元の関係機関から派遣していただいているが、令和4年度は環境問題について取り組む研修コースが無かったため、基本目標に対しての成果はあげられなかった。	